

「そこを行くあなた、自分とは無縁なことと思わずに、まあ、ちよつと話をお聞きなさいまし……」

「自分とは無縁なこと」といえば、どなたも「自分とはまったくかわりがない、関係ない」とことと理解なさるだろう。近年は「無縁社会」なる語が使われるようになってきた。NHKのドキュメンタリーにおいて、社会とのかかわりが薄く、孤独に生き、「無縁死」つまり孤独死する人が多くなったという現代日本社会の問題が取り上げられたときから、この語が使われ始めた。日本語で「まったくかわりがない」を意味する「無縁」から作られた造語である。

ところが「無縁」という語は日本各地の地域社会のなかでさまざまな意味をもつて存在している。「無縁」「無縁様」あるいは「無縁仏」の語が意味するものを列記してみることしよう。

①身元不明の死者

②絶家して祀り手のいなくなった仏

それとほぼ同じ意味のものとして、祀り手のいなくなった墓

「無縁墓」がある。この問題も近年長く取り上げられている。

ここまでは「無縁社会」として取り上げられる「無縁」とほぼ同一の意味、すなわち「関係ある人」「縁のある人」がいない靈魂に対する用語である。しかし民俗社会で「無縁」「無縁仏」とよばれている死者・靈魂はこれだけではな

③成人せずに死んだ子どもおよび、未婚のまま死んだ者

④水死、海難死、事故死、自殺などの変死、異常死した者

この③も④も親や兄弟、親戚がいたとしても「無縁」として供

を
か
か
わ
り
考
え
る

人間学の
キーワード

無縁

Disconnected Spirits, Relationless

あきの ひさえ 京都精華大学特別研究員
浅野 久枝

養をしなくてはならない。さらにもつと理解に苦しむ事例がある。

⑤亡くなって三三年か五〇年経ち、年忌あげた死者の霊

ほとんど知られていないが、年忌あげた霊(仏)を「無縁様」とよび「普通の先祖よりも位が高く、大切にしなければならぬ」などとする地域があるのだ。

年忌あげた仏は「先祖になる」「カミサマになる」などといわれる事例が全国的には多い。一方、年忌あげた仏を「無縁様」とよぶ事例は宮城県北部に何カ所かみられ、岩手県、青森県、福島県そして大分県の一部に散見できる。また岡山県でも年忌あげた仏が無縁仏のような存在であるミサキになるとする事例がある。筆者は現在、この⑤の「無縁様」「無縁仏」を追求している最中で、今後その成果を発表する機会もあるかと思うが、少なくとも⑤の「無縁」は「縁がない」どころではなく、深い関係をもつ靈魂(仏)である。また、③も④も、結婚していない、死に方が悪いなどの理由で「無縁」とよばれているだけで、決して無縁な仏ではないのである。

一般語としての「無縁」の意味は動かしようがない。その語を元にした「無縁社会」「無縁死」「無縁化する人びと」の問題はもちろん重要視すべきだが、民俗社会のなかでの「無縁」は必ずしも「縁の無い」仏ではなかった。「先祖が無縁様」とあるという伝承をもつ人びとがこの日本社会のなかに現在も生きていくことに注目し、「無縁」の観念をもう一度考え直すべきではなからうか。それにより「無縁社会」を克服する思考法を見つけ出すことができるかもしれない。